

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.6【引当金・資産除去債務】

収録日：平成 25 年 12 月 28 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 126 回商業簿記（易）、129 回商業簿記（易）
全経簿記上級過去問 168 回（資産除去債務：難）170 回（引当金：難）でも両回とも 16%
以上の合格率

<サクッと受かる日商簿記 1 級 I（資産・負債編）改訂六版 P286-302、183-191
<スッキリわかる日商簿記 1 級 II（資産・負債・純資産編）第 5 版 P199-210、113-117
<検定簿記講義（商業簿記）H25 年版 P48～52

今回からサク・スッキリ
テキストの版が変わっています

<引当金>注解 18 は有名（170 回全経で出題）

将来の特定の費用又は損失であって、その発生が当期以前の事象に起因し、発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積ることができる場合には、当期の負担に属する金額を当期の費用又は損失として引当金に繰入れ、当該引当金の残高を貸借対照表の負債の部又は資産の部に記載するものとする。製品保証引当金、売上割戻引当金、返品調整引当金、賞与引当金、工事補償引当金、退職給与引当金、修繕引当金、特別修繕引当金、債務保証損失引当金、損害補償損失引当金、貸倒引当金等がこれに該当する。発生の可能性の低い偶発事象に係る費用又は損失については、引当金を計上することはできない。

P/L 中心の考え方（将来の特定の費用又は損失）から出てきた概念

<将来の資産の減少に備えて、その合理的な見積額のうち当期の負担に属する額を費用または損失として計上する為に設定する貸方項目である
（費用認識の結果負債になる、という消極的な感じ）

<収益との対応を重視している

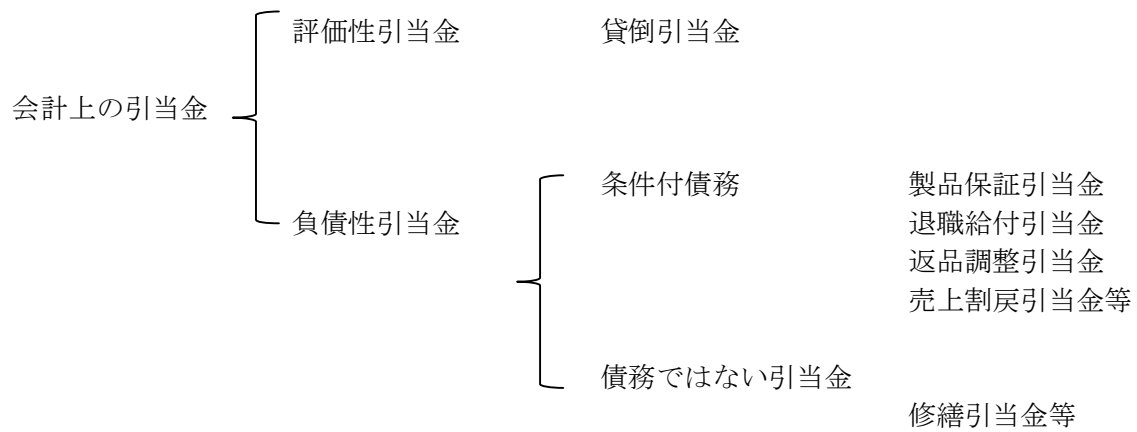
{ 減価償却費・・・過去の支出を当期に配分
{ 引当金・・・将来の費用を当期に配分（4 要件満たせば保守主義の原則から引当金適用）

4 要件満たさなければどうする？

引当金（負債）計上できない場合は積立金（純資産）として計上
（利益を配当にまわさないように積み立てると感じる）

会計学が産んだ負債（債務ではない）ともいわれる

引当金の分類



<会計上の債務=負債>とは (概フレ)・・・経済的資源を引き渡す義務

<法的債務>とは・・・①いつ②誰に③いくら 払うかが決まっている債務 (確定債務)

<条件付き債務>とは・・・①~③のいずれかが確定していない債務

修繕引当金は負債性引当金であるが債務性はない (相手決まっていない)

<修繕引当金：修繕しようと思っていたけれど、燃えた→修繕しない
修繕しようと思っていたけれど使えそう→修繕しない

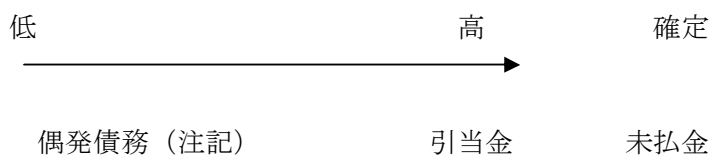
<製品保証引当金：期間きれるまで義務ある

<買掛金：燃えても支払い義務は消えない

この違いのイメージくらいはもっておこう

<負債認識について>

発生の可能性



IFRS では偶発債務も偶発の可能性だけ負債に載せる

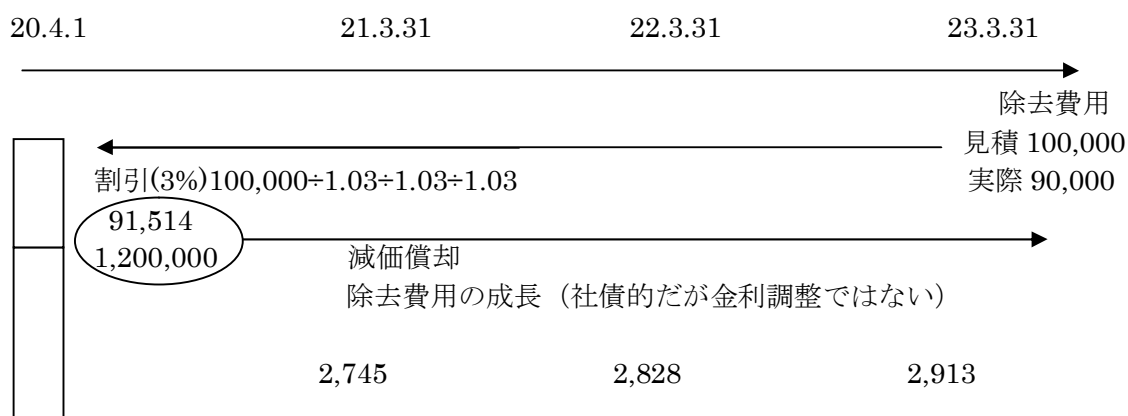
資産除去債務（法的な債務）・・・自発的に行う場合や修繕は含まない

有形固定資産の取得、建設、開発又は通常の使用によって生じ、当該有形固定資産の除去に関して法令又は契約で要求される法律上の義務及びそれに準ずるものをいう。この場合の法律上の義務及びそれに準ずるものには、有形固定資産を除去する義務のほか、有形固定資産の除去そのものは義務でなくとも、有形固定資産を除去する際に当該有形固定資産に使用されている有害物質等を法律等の要求による特別な方法で除去するという義務も含まれる。

アスベストの除去費用などが含まれます

（例題）

CMC社（3月末日決算）は平成20年に機械を1,200,000円（残存価額0円、耐用年数3年）で取得した。この資産については使用後に解体・撤去する法的義務があり、除去に要する支出は100,000円（割引前）と見積もられている。割引率の算定に当たっては無リスク利子率である3%が用いられている。（円未満四捨五入）。なお、実際の除去費用は90,000であった



仕訳をまとめておこう

購入時

機械 1,291,514 / 現金 1,200,000
資産除去債務 91,514

決算

減価償却費 430,505 / 減価償却累計額 430,505
利息費用 2,745 / 資産除去債務 2,745

除去時

資産除去債務 100,000 / 現金 90,000
履行差額 10,000

B/S表示 両建処理

貸借対照表日後1年以内に資産除去債務の履行が見込まれる場合には、流動負債の区分に表示する

固定資産を3年間使って3つの費用を認識

減価償却費 }
利息費用 } 計算上わかっているだけで費用の性格に差はない・・・販売管理費
履行差額 }

日商126回(会計学)して下さい

日商簿記の会計学で点数とるイメージつかめると思います(簡単に10点取れます)

$\times 1.4.1$ 5,000
----->
4,100 <----- $5,000 \times 0.82$
82 (4,182) 84

60,000

減価償却費 6,410

履行差額は費用

<参考>

引当金処理(収益費用AP)も検討されたが、負債計上が不十分という事で両建処理(資産・負債のW計上)が採用された(結局はIFRSにならった=資産負債APという事)

資産・・・除去時の支出額を付随費用と同様に取得原価に加えたうえで費用配分(41項)

負債・・・経済的資源を引き渡す義務

<さらに参考>

資産とは・・・過去の取引または事象の結果、報告主体が支配している経済的資源
所有ではない

負債とは・・・過去の取引または事象の結果、報告主体が支配している経済的資源を引き渡す義務